

日ポ・サロン会報

日ポ・サロン会報 第18号

発行日 平成30年2月20日
事務局 日ポ・サロン
〒595-0041 泉大津市戎町6-10
TEL.0725-32-6328
FAX.0725-31-3747
E-mail: donkawai@pearl.ocn.ne.jp



大統領官邸（ワルシャワ）

「明治維新150周年とポーランド独立100周年」

NPO法人 日ポ・サロン 理事長 高 島 和 子

昨年度留学生トゥルスカ・ドブロミワさんの留学報告を中心に、お忙しい中ご執筆下った諸行事の楽しい記事満載の会報18号をお届けします。

今年（2018年）、日本は明治維新150周年とのことですが、ポーランドも123年間もの長きに亘り三国に分割統治され、国名が消滅していた国難から立ち上がり独立を果たして100周年を迎えています。奇しくも両国共に近代化に向けて大転換を成し遂げた記念の年となりました。

昨年招聘した16人の新留学生ウルシュラ・アルトマイエルさんも「今年独立100年ですね」と嬉しそうでした。彼らの意識の中にも強く刻まれている独立を果たすまでの長き戦いと喜び、その後も続く過酷な歴史を支えたのは、愛国心そのもの。そんなポーランドに明治の頃より心を寄せ応援した日本人が多い理由について、ワルシャワ大学日本学科のイヴォナ・ナヴラツカ古典文学教授が「日本人は半官びいきだから」と述べておられます。

志を同じくする友人4人と創設し、71名でスタートした日ポ・サロンは来年で20周年を迎えようとしています。その間、諸事情で退会された方もありながら、遠方より変わりなくご支援下さる方々や人から人へ、友から友への繋がりや有難さで着実な歩みを続け、お陰様で現在会員数は130名を超え、年会費と行事からの基金で、毎年1人の神戸大学交換留学生招聘が可能となっています。

留学生達の真摯な学びの姿勢に感動と刺激を受けつつ、会員同士の交流も年々深まり互いを思い遣りながら行事を共に出来る喜びと感謝を感じます。

日本での数々の経験を胸に、社会に家庭にと活躍の場を広げている留学生達に未来を感じ、草の根の国際交流の確実な実りを頼もしくも嬉しくも思います。

今後とも皆様の末永いお力添えをどうぞよろしくお願い申し上げます。

総会並びに講演会

2017年1月21日(土)

於/KBS「桐の間」

会員37名・留学生2名出席・委任状：60名提出

<第1部>

2016年度事業報告

2017年事業計画・役員紹介・招聘留学生紹介

役員紹介

理事長 高島和子

理事 河合康子・岸本啓子(事務局)

澤瀉徹郎(音楽担当)・樋口晴子(書記)

田中サヨ子(留学生担当)

吉岡久代・牧孝仁(会計)

長岡正(会計監査) 常田じゅん子(新理事)

新入会員紹介(アイウエオ順/敬称略)

生駒朋巴・芋縄啓史・由佳・江崎正道・友子

狩山寿枝・河野雅子・栗山夙子・児玉優子

福田宏子・水田ムツミ

新招聘留学生 ドブロミワ・トウルスカヤ

紹介及びスピーチ

<第2部>

講演会・講師

Agata Wierzbowska

(アガタ・ブイエジボフスカ)

神戸大学経済学研究科講師



講演中のアガタ氏

「日本経済、金融政策とその行方」

2017年1月21日に「日本経済、金融政策とその行方」を題名とした講演を行いました。この講演では、日本の経済の歴史的な行方を背景として、簡単に日本経済の現状、特に金融政策、に関する理解を深めることを目的にしました。

最初は、戦後の日本経済の道を辿り着きました。経済学者によると、戦後の日本の経済歴史をいくつかの段階で説明できて、平均成長率が段階的に低下してきました。戦後の復興の時期後、高度成長の時代に入って、経済的な計画、財政と金融政策の重大な役割、技術進行のため、経済が大きく成長しました。1970年代に経済的な成熟を達成して、景気減速の時期に入って、オイルショックや固定相場制の終了という大きい環境変化がありました。1980年代後半にバブル経済があってバブル崩壊後、現状にいたる「失われた20年」の時期に入りました。

「失われた20年」というのは、1990年代半ばから始まった、日本経済において低成長の時期となっています。同時に、アメリカや中国などが成長し続けたことで、世界において日本経済の立場も弱まりました。その時期で、日本経済がいくつか重大な問題を抱えてきました。まず、財政の問題があります。バブル崩壊後の総合経済対策などの財政出動、不良債権の解決のための支出、景気低迷による低い税収入と高齢化社会による医療と社会保障のコストが財政赤字・公債の高水準の原因となって、日本の対GDP公債が先進国間最大となりました。二つ目の重大な問題はデフレです。

デフレというのは、経済社会において一般的な物価水準の低下です。デフレによる悪循環が経済成長に悪影響を与えています。

物価が減少し始めたら、人々は物価が将来にもっと下がることを期待して、消費を後回ししてしまいます。物を売るため、企業が価格を引き下げる必要になって、この行動が更なる物価減少に貢献するだけではなく、企業により損失にも繋がる。損失している企業が賃金と採用を低迷させて、収入が減った人々による消費が更に落ちて、物価が下がり続けます。この循環から脱出できなかったら、経済成長がずっと低迷してしまいます。

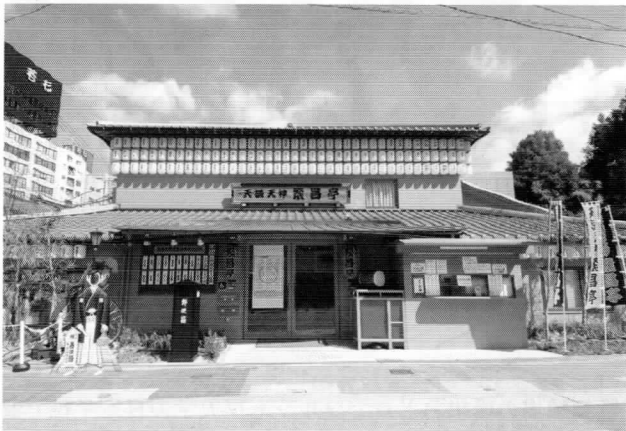
デフレを脱出するため、日本銀行が様々な金融政策を緩和してきました。通常の政策手段である金利がゼロまで引き下げられた時、「伝統的な」金融政策の限界となって、「非伝統的な」金融政策に向けました。その枠組みの中、量的・質的緩和、マイナス金利、長期金利操作があります。量的・質的緩和は、国債などの購入によって、長期金利をもっと低下させて、株価上昇や円安の原因となって、お金を借りることを安くして、企業による生産・消費者によって消費の上昇をさせて、インフレ率を上昇させる目標があります。また、人々が物価減少を期待することを終わらせるため、インフレ目標2%を発表しました。この金融政策によって、わずかなインフレ率の上昇と経済回復、株価上昇、円安などの初期の効果が観測できました。しかし、日本経済におけるその他の課題もあって金融政策効果が制限されています。この問題の中、企業部門における課題：現金保有・イノベーションの有無と国際競争・賃金の引き上げ、労働市場の情勢：非正規労働者の急増・実質賃金の停滞・減少、高齢化と人口減少：社会保障とコスト上昇・貯蓄率低下・労働人口の低下、などが挙げられます。また、過去の経験も受けて、消費者と企業による将来見通しが横ばい・低下して、将来への不安が続く限り、現在の消費・投資の控えなどの行動が終わらなくて、マクロ経済情勢が改善しにくいのです。

最後に、国際情勢も日本経済に影響を与えています。円安によって、輸出が増えることができますが、同時に輸入商品(原油・ガスなど)の増価で悪影響を感じる企業もあります。また、輸出額が相手国の景気や貿易政策などの影響も受けています。日本経済が対峙している問題が複雑で、要因も必要な対策方法も多くあって、互いに影響し合っています。まだ解決されていないことも多いですが、全体的に穏やかな回復が続いており、現状に関する判断と将来の予測が割りと楽観的と言えるでしょう。

「春の親睦会(天満天神繁昌亭)」

2017年3月4日(土)

会員34名 お客様2名 留学生3名



天満天神繁昌亭

「春の親睦会に参加して」

牧 孝 仁

平成29年3月4日(土) 当日はお天気も良く、大阪天満宮にある参集殿の盆梅と盆石展を見学、大阪天満宮所蔵の宝物及び樹齢200年を越す古木や名木の作品が多数出展あり、伝統のある作品を鑑賞することが出来ました。

その後、天神橋筋商店街にあるイタリアンレストラン・ミラにて本格的パスタを頂きました。昼食後、すぐ近くにある天満・天神の繁昌亭に行き、落語を鑑賞しました。

繁昌亭は平成18年9月にオープン。

落語の定席として、落語会会長の六代目・桂文枝が中心となり完成。それまでは、大阪天満宮の駐車場で、人通りの少ない閑散とした場所でした。

天満宮の宮司さんの賛同を得て、この界限の活性化につながることであり、寄席を作る事になりましたが、落語協会には資金がなく、寄付を募り、結果2億4千万円が集まり完成致しました。

劇場内外の天井には、約4500件分の寄付をした人の名前が書かれた提灯が並べられ、建物入口には、初代桂春団治が多忙のため移動手段としていた、有名な『赤い人力車』や明治時代を思わせる『黒い屋根付きの郵便ポスト』も設置されています。

当日は落語で、皆、お腹をかかえて笑いました。

トゥルスカ・ドブロミワさん送別会

2017年8月8日(火)

於/関西文化サロン

会員34名・留学生2名・お客様2名

講演会講師 元ポーランド大使 田邊隆一氏



「送別会スピーチ」

トゥルスカ・ドブロミワ

(神戸大学・大学院国際文化学研究科)

皆様、こんにちは。既にご存知かもしれませんが、トゥルスカ・ドブロミワと申します。ポーランドでワルシャワ大学の日本学科の修士課程の1年生です。日本では神戸大学大学院の国際文化学研究科の学生です。

去年の10月に皆様のご支援のおかげで留学生として来日でき今年の9月に日本留学があつという間に終わります。

日本へ到着した時から今日までの一年間で毎日新しい経験をしながら、たくさんの思い出ができました。皆様と何回もお会いする機会ができ、親しくなれたことが特にありがたいです。今日は、留学の一年間で最も印象に残った思い出のいくつかを思い返しながらスピーチを発表させていただきたいと思います。

今まで観光客として来日したことがありましたが、日本に住む経験というのは人生で初めてでした。普通、誰でも留学する直前に緊張するだろうと思いますが、私の場合は去年の2月にワルシャワ大学の先生に推薦された頃から日ポ・サロンの方々と連絡を取っていたので、不安なんてなかったです。両親も普段心配する方なのですが、今回は皆様がいらっしゃったので、珍しく心配なく私を日本に行かせました。

1月にスピーチを発表したときから皆様との思い出が増えましたが、最も印象に残った思い出と言えば、すぐに浮かぶのは紅葉狩りという親睦会です。紅葉狩りで皆様と一緒に紅葉した木を京都へ観に行きました。皆様と祇園の中心に位置する建仁寺で集合し、お寺を参拝しました。建仁寺の境内にある法堂の天井画に描かれた迫力満点の「双龍図」や有名な「風神雷神図」などを拝観し寺内のお庭へ向かいました。方丈の庭の木が綺麗に紅葉しており、ポーランドでは経験できない小さい手のよう

な紅葉の美しさに関心しました。そのあと、皆様と祇園の街並みを散策しながら、京都らしい風景を楽しむことができました。その日は初めて京都に行ったので、朝早く教科書やインターネットからよく知っていた清水寺や祇園などが見れて、夢の世界への遠足のようなものでした。

春には、皆様と梅と密接な関係のある菅原道真を祀る天満宮へ足を運びました。ちょうどそのとき、菅原道真の愛しい梅が咲いていたので、皆様と盆栽の梅や松の展示会に行き、珍しい植物を見ることができました。

その後、美味しいイタリア料理のお店でランチをいただき、落語を見に行きました。落語というのは、外国人の私にとっては当初少しわかりにくかったですが、いったん雰囲気慣れたら、日本語の冗談でも政治の話でもなんとか通じるようになりました。皆様といっぱい笑い、ストレスを解消し、爽やかな気分になりました。

歓迎会や送迎会にも皆様にお会いする機会をいただきお喋りなどしてその貴重な時間を楽しく過ごしました。皆様との交流のおかげで様々な勉強ができ、日本文化への理解が深くなり、日本語も上達しました。この一年間いただいた皆様の好意は、大切にしている私の宝物です。

一昨年まで関西に行ったことがありませんでしたが、神戸は非常に住みやすい町で、大阪にも京都にも行けるような場所にあり、とても便利でした。神戸大学や住吉寮などが風景の良いところにあったので、通学がとても楽しかったです。

大学生活に関しては、神戸大学で友達ができるため、東洋拳法のサークルに入部し、人生初の先輩や後輩ができ、一年間一緒に稽古を頑張ることを通して友好を深めることができました。

また、日本ポーランド協会でポーランド語を教えるのとポーランド文化のワークショップを行うことでポーランドに興味を持った大勢の日本人に出会うことができました。現在、私の生徒の二人がポーランドで勉強を頑張っており、一緒に勉強した文法などを使いながらポーランド語が話せるように努力しているので、役に立ててとても嬉しかったです。

是非思い返させていただきたい次の思い出は、曲水の宴です。春にえびす神社により開催される曲水の宴に参加させていただき、平安時代のお姫様のようなカラフルでかわいらしい十二単を着、お嫁さんのようなお化粧をしていただきました。そのあと、公園に移動してから、他の参加者と一緒に綺麗に散り始めた桜の花の下に座り、その風景に感動しました。

「晴れきらぬ 西の空には 踊る花」という俳句を書いてみましたが、文法的に日本人の皆様には理解されるかどうかドキドキしていました。しかし、おかげさまで私の俳句が歓迎されましたので、ほっとし、曲水の宴の流れを楽しむことができました。このように歌を昔ながらの日本の歌会遊びを経験できました。

今までお話しした機会以外にも、日本独自の芸能を数回見ることができました。雅楽、文楽、歌舞伎や先斗町



東洋拳法サークルの仲間たちといっしょに・・・

歌舞練場の鴨川おどりでワルシャワ大学の日本学科で習った日本の美を感じることができました。また、飛鳥で日本最古の大仏を拝見し、最も古い日本の文化について学びました。このような日本の歴史を感じる場所以外に、仏教の教えについて勉強できる高野山、また、自然が楽しめる長野県と富山県などにも行くこともできました。日本について学ぶにつれて日本により興味を持ち、より魅力を感じました。しかし、日本の魅力を自分だけで楽しむのではなく、ポーランドから訪問してくれた家族や友達に日本を紹介することができました。

5月、つまりゴールデンウィークの時期に両親と弟が来日し、3週間関西の町を発掘しながら日本に心を奪われました。そのたびに、皆様と万博記念公園を歩き、一緒にランチをいただきました。両親にとって、皆様に会うことはとても特別で大切な出来事でした。

留学は勉強のためになるべきものなので、勉強が留学生として最も大事な私の課題の一つでした。皆様のご存知の通り、卒業論文を開高健の作品について書き、彼の「パニック」、「裸の王様」及び「日本三文オペラ」という3作における社会と個人の関係について研究しています。

「パニック」では、県庁山林課に勤めた俊介がネズミの大量繁殖を見込み、社長にそれを防ぐための対策を提案しますが、彼の提案が反対され、結局俊介が予測した現象が起きます。この作品では、開高健が激しい社会の中で勝つわけにはいかない個人の動きを描き、保身しようとするに汲々とする人間の態度を批判します。負けた俊介が最後に「やっぱり人間の群れに戻るより仕方ないじゃないか」と発言し、諦めます。さらに芥川賞受賞作の「裸の王様」では、開高健が戦後社会の組織化を批判し、個人の重みに疑問を投げかけます。「日本三文オペラ」でも、「アパッチ族」が生き残るために社会を意味する警察と戦い続けなければならない立場にありますので、人間と社会の関係は非常に暗いです。

関西へ留学したおかげで、開高健が「日本三文オペラ」という小説で描いた大阪を見ることができました。その作品では、開高健が泥棒集団「アパッチ族」という人間

の悲しい存在を描きます。「日本三文オペラ」の登場人物が大阪に位置する陸軍工廠の役割を果たしていたこの広大な敷地で暮らしており、そちらの残骸を集め、鉄材として売ることによって苦勞して生活費を稼いでいます。その敷地が現在の賑やかな梅田という場所なのですが、神戸に留学しなければ、そちらの歴史が直接に知れなかったのです。

開高健の作品を読むと、戦後日本の生活のイメージがしやすいです。例を挙げると、「日本三文オペラ」で人生に困っていたアパッチ族がよく口にしていた食べ物、つまり韓国から来た、二次大戦の後で日本全国で食べられるようになったホルモンという料理まで戦争の現在への影響を深く理解できます。

神戸大学の図書館で、開高健についての本を何冊も見つけたので、論文の資料を集めることができました。「ベトナム日記」、「夏の闇」、「オーパ!」や「玉、砕ける」などを読み、また、開高健の写真集を拝見することで彼への理解が深まりました。また、「わたしの開高健」、「男、が、いた。開高健」、「開高健 生きた、書いた、ぶつかった!」といった本などを購入できました。

卒業論文はポーランド語で書くので、まだ訳されていない開高健の作品をポーランド語に翻訳しなければなりません。論文で開高健の「日本三文オペラ」及び短編小説2作、つまり「パニック」と「裸の王様」を資料として利用しますが、「日本三文オペラ」のポーランド語訳がすでにあるので、短編小説の方だけを訳すことになっています。日本語からポーランド語に翻訳できるため、単語や文法が必要なもので、とりあえず冬学期には日本語の勉強に集中するという計画を立てました。そのため、日本語能力試験一級の教科書を山ほど購入し、毎日大学の図書館で漢字・単語・文法・読解や聴解などの勉強をしました。最初の2ヶ月が経ったら、日本語能力試験一級を受験し、12月に合格することができました。

同学期に辛島先生の授業で開高健の勤めていたサントリーについて学び、「人間らしくやりたいナ」という有名な広告作品を生み出した卒業したばかりの若い開高健の少年時代について勉強することができました。春学期

には朴先生や辛島先生などの授業で翻訳方法などについて学びました。この準備を終了してから、文法などの勉強のおかげで長い文章を使う傾向にあった開高健の書き方が理解しやすくなったので、日本にいる間、「パニック」という小説を訳すことができました。現在、ポーランドで「裸の王様」を翻訳しています。

このような新しい経験、冒険、勉強や挑戦に溢れた一年間を皆様に誠にありがとうございました。今から数え切れないほどある思い出を大切にしながら遠いポーランドで生活していきますが、皆様のことを一生忘れません。また、来日したときに大変お世話になりました皆様にお会いできたらと思います。留学以降でも宜しく願いいたします。(本文原文のまま)

////////////////////////////////////

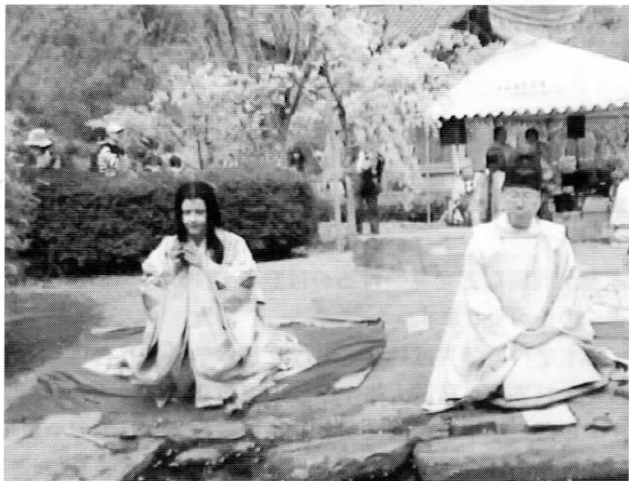
「2017年留学生送別会」

木 藤 浩 之

8月10日、恒例の留学生送別会が開催されました。高島理事長より開会の辞に引き続き本日の特別講演ゲスト、元ポーランド全権大使・田邊隆一氏の紹介がありました。氏は1970年外務省入省後、ドイツ、サウジアラビア、オーストリア、ミュンヘン、インド大使館等海外公館の公使、総領事そして本省の要職を歴任され、2003年セルビア・モンテネグロ大使、2005年特命全権大使（アフガニスタン支援調整担当）、2006年ポーランド大使、2009年関西大使、2010年政府代表として長年日本外交の一線でご活躍になりました。退官後は日本電産株式会社常勤監査役に就任、今日までその重責を担っておられます。

演題は「国際情勢と日本外交」。勤務の長かった欧州情勢を中心に今後の日本外交のあり方について示唆に富む内容でありました。ポーランド大使として、日ボ友好親善にご貢献されたお話に加えて世界史の大転換の契機になった1989年のベルリンの壁崩壊は、氏がドイツ在勤中の事件で、直接目の当たりにされた数々の出来事のご経験談は誠に迫力満点でありました。現在混迷を極める世界情勢のなか、これからの日本外交のあり方について氏のご見解は我々に大いに参考になった次第であります。

次にトゥルスカ・ドブロミワさん、愛称ミワさんの報告です。パワーポイントを使って要領よく、そしてユーモアを交えながら見事な日本語での説明はなかなかのものでした。研究テーマは作家「開高健」。昨年それを耳にした時ちょっとびっくり。留学生の日本についての研究テーマと云えば古典文学、伝統芸術、仏教神道、現代文学なら国際的に著名な川端康成、三島由紀夫、あるいは村上春樹などと思っておりましたが、あにはからんや開高健とは！開高健は我々世代には馴染みが深く、言わずと知れた大阪出身の作家です。1930年大阪市天王寺区に生まれ、旧制天王寺中学（現府立天王寺高校）、



えびす神社・曲水の宴にて 十二単のミワさん

大阪市立大学を卒業後、壽屋（現サントリー）宣伝部に属し、PR誌「洋酒天国」やCMキャッチコピーの制作に従事していました。学生時代から文筆活動が続けており、1954年「裸の王様」で芥川賞を受賞。その後、本格的に数々の小説、エッセイ等、またベトナム戦争ルポ記など多彩な作家活動が続けましたが残念ながら1989年、58歳の若さで世を去りました。

大阪を舞台にした小説「日本三文オペラ」は終戦後、旧大阪砲兵工廠址に住みついた人々とその排除を試みる警察との攻防を描いた小説で、当時の日本社会の深層をえぐり出した秀作と評価されており、親友小松左京も同じテーマで「日本アパッチ族」を書いております。このことをミワさんにお話したら小松左京は指導教授が大好きな作家で既に「日本沈没」をポーランド語に訳し出版されているとのこと。それを聞き開高健も小松左京も国際的な作家、と改めて認識いたしました。

開高健についてコンパクトによくまとめられた研究成果に続いて神戸大学での学生生活及び日本探訪の報告も誠に興味深いものでした。自らの50数年前の学生時代を思い出しながら驚いたのは、すばらしい寮、豪華な？学食メニューです。昔の寮は言わば青春の巣窟、およそ人間離れした空間でしたが、ミワさん入居の学生寮は清潔なホテル、学食メニューはご馳走のオンパレード。今は本当に豊かな時代でまさに今昔の感あり、を痛感いたしました。ポーランドの学生生活は如何なのでしょう？街の風景、レストラン、イベント等々、彼女の興味関心の的の様々のスライドを見て、我々日本人では気付かない数々を改めて勉強させて頂きました。動画のカメラワークがいいので特別に勉強したのかと尋ねたところ特には・・・という答え。多分天性のセンスの良さなのでしょう。

散会後、皆さんと名残惜しく三々五々記念撮影雑談をし、いよいよ別れる間際、エレベーターまでメンバーを見送り、丁寧なさよならの挨拶。立ち振る舞いのよさに最後まで感心致しました。今は大和撫子はポーランドに咲くのかと思いながら・・・。

ミワさん、早く帰って来てね！再会楽しみにしています。

「講演会とミワさんの送別会」

高 木 知 子

トウルスカ・ドブロミワ（通称ミワ）さんと初めてお会いしたのは、2016年10月1日、神戸の六甲道でした。にこやかで礼儀正しく、その上流囃な日本語でのご挨拶。

ワルシャワ大学日本語学科の学生さん達は、修士論文のテーマを掲げて日ポ・サロンの招聘を受けます。

ミワさんは開高健の「裸の王様」、「パニック」、そして「日本三文オペラ」をポーランド語に翻訳し、そこ

に描かれた個人と社会の関係を検討することです。そのずば抜けた能力と努力には驚かされます。この一年間、勉強だけでなく日本各地を旅し、日本の伝統文化「曲水の宴」に十二単を纏って参加したり、師走でにぎわう黒門市場の「ふぐ屋」さんと、靴やズボンをビショビショに濡らしながらアルバイトを経験したりと本当に頼もしい限りです。有意義で充実した日々を過ごされた日本での体験を糧に、美しい大輪を咲かせて下さることを期待しています。

当日、田邊隆一・元在ポーランド特命全権大使による、「日本・ポーランド国交樹立90周年にあたっての所感」についてのお話を拝聴しました。

123年もの間、ロシア、プロシア、ハプスブルグ帝国に3分割されて国家を喪失したが、1918年11月に独立し、その後日本との国交がいち早く樹立されたこと。その国交樹立90年の間の政治・経済における両国の関係性。人々の「善意と友好の歴史」「様々な友好と親善のエピソード」等々、多岐にわたる奥深いお話をお伺いし、とても勉強になりました。

近年では、日本語に限らず茶道・日本料理・古武道・柔道・剣道・相撲・アニメ等々、日本の文化を学ぶ「新しいタイプのポーランド人」が増えていると大使が述べておられるのが、とても印象的でした。

深い知識を持って友好・親善を大使として、ご夫婦で世界中を駆け巡ってこられた事、とても誇りに思いました。

初めまして、こんにちは！

ウルシュラ・アルトマイエル



皆さん、こんにちは。AltmaierUlaと申します。ワルシャワ大学の学生、今は日ポ・サロンの皆さんのおかげで神戸大学で留学できます。日本に誘っていただいてありがとうございます。本当に感謝です！日ポ・サロンのみんなのおかげで日本の

生活を経験できるし、日本人の友達も見つけられて、日本とポーランドの架け橋になれます。でも、私は日本に来た一番大事な理由は卒業論文のため書類を集めることです。ポーランドにいる時以外、日本にいる時は特別な本とか映画などを見つけるのは簡単ですからいい論文を書くのを頑張ります。

日本学科の学生はいつも「なぜ日本学科？」という質問をされます。私は大体中学校の頃から日本に興味がありました。小学校の頃に父と一緒に毎日テレビでドラゴンボールというアニメを見ましたが、あの時はまだこれは日本のアニメだとわかりませんでした。そして、中学

校の時はインターネットで日本の音楽を見つけて、日本語と好きになりました。日本語はとてもメロディーっぽい言語だと思って、音楽によく合わせて、日本語を勉強したくなりました。母は日本語の教科書を買ってくれて自分で勉強してみました。そしてだんだん日本の文化とか、和食とか、文学や歴史などにも興味になって、日本学科に入りたくなりました。

次は少し論文について話したいと思います。前の書いた学士論文には音楽のテーマにしました。短い論文だったので（～40ページ）1つの音楽の種類だけ選びました。ロックについて書きました。あの論文にはまず少し日本のロック音楽の歴史を説明して、今の音楽について書きました。日本のファンやコンサート、そして日本の音楽のポーランド人のファンやポーランドで行う日本人のバンドのライブを比べました。研究は面白かったです。同じバンドだってもポーランドと日本のライブは全然違いました！あの論文を書く時は様々な日本のバンドやアーティストとインタビュー出来ました。GACKTさんとも論文のためインタビュー出来ました。結局は、去年に論文は本になって出版されました。今後も頑張りたいと思います。今度も出版されたら嬉しいです。今の、修士課程の論文は前の論文と比べてもっと長く書かなければなりませんが（～80-100ページ）楽しみにしてチャレンジです。

多分皆さんはよく知っていますが、私は今の修士課程の論文は吸血鬼について書きます。珍しいテーマですからもう何回も少し説明しましたが、今日、もっと詳しく話したいです。

論文は主にどうやってヨーロッパで生まれた吸血鬼の伝説は日本のポップカルチャーで表しますか。まずヨーロッパに集中して、この伝説の歴史について書いて、後は日本の文化にはどんな影響をしましたかと書きます。

どうしてこのテーマを選びましたか。ヨーロッパから日本まで吸血鬼の伝説の旅をして、少しずつ変わって、結局はこの旅は面白いと思います。そしてオリジナルなテーマを研究したいです。日本学科では誰かが前に書いた論文と同じ似ている論文を書くのはダメです。みんなは自分の論文を特別なサイトにアップロードして、コンピュータプログラムはほかの大学生の論文と比べます。似ている部分があると少し危ないです。そして日本学科の学生はよく日本の伝統的なものとかヨーロッパに影響する日本のものとか研究します。私もあの前の音楽の論文はポーランドに影響と研究しました。今度は逆のものを研究したいです。外のものの日本の文化の影響です。

私はこのテーマについて話すときはみんなはいつも「でも日本では吸血鬼はない！」といいますが、実はあります。様々な日本人の作家の本とか、漫画とか、音楽などです。

今まで様々な日本の映画を研究しました。初めての日本のヴァンパイアの映画は、1956年の「吸血蛾」という映画です。1956年はほかの国と比べて少し遅いけどだんだん人気になったテーマです。初めて日本人はホラー映画を作る時は日本の鬼に集中しましたが、だんだんヴァン

パイアにも興味になって、日本の鬼と同じように人気になりました。

「吸血蛾」の後、次の映画は1959年の「女吸血鬼」でした。これは初めての吸血鬼のキャラクターに集中している日本の映画でした。前の「吸血蛾」には一番大事なのはストーリーでした。吸血鬼のキャラクターはあまり現れなかったです。「女吸血鬼」にはヴァンパイアを紹介するのが一番大事なテーマになりました。でも、この映画のヴァンパイアはヨーロッパの伝説とか、あの時の人気なアメリカやヨーロッパの映画や本と全然違います。

Bela LugosiやChristopher Leeのドラキュラと服や話し方を真似していたけど、これ以外似てるところはありません。

「女吸血鬼」のヴァンパイアは日の光は全然怖くないし、普通に昼の時に外で散歩できます。そして十字架も怖くないみたいです。人の血を吸うのもそんなにいらぬみたいです。少しだけ吸うのが吸いたくないです。激しくて、血を吸いたくなるヴァンパイアは満月の時だけになります。ヨーロッパやアメリカの伝統的なイメージと全然違います。次の「黒猫」という映画にヴァンパイアは猫に変化できました。これも珍しい特徴です。

1970年には海外のヴァンパイアはもっと人気になって3つの映画ができました。「幽霊屋敷の恐怖 血を吸う人形」、「呪いの館、血を吸う目」、「血を吸うバラ」でした。この3つの映画は海外でとても人気になりました。ポーランドでもVHSカセットで買えました。この3つの映画は日本で作った映画だけどヨーロッパっぽいでした。ストーリーや家や家の中飾りなどは全部はヨーロッパっぽいでした。でもヴァンパイアのキャラクターは違いました。

例えば「血を吸う人形」の映画では、ヴァンパイアは人を殺すためにナイフで刺しました。これ以外にも色々な違いが出たので比べて研究するのは面白いです。

1970年の後は、ヴァンパイアの映画とかアニメはたくさん出て、とても人気なトピックになりました。今度の発表は全部の映画について話す時間はあまりないので少し音楽に移ります。

音楽はヴァンパイアのテーマはよくロックバンドの曲にあります。KayaとかVersaillesとかDとかGACKTなどがよく吸血鬼について歌っています。GACKT以外あまり知られていないアーティストですから、インタビューをやってみたいです。そしてこの全部のアーティストのヴァンパイアのイメージは違います。例えばKayaの曲にはロマンチックなヴァンパイアのイメージだけ出ます。

Versaillesも同じです。上品なロマンチックなヴァンパイアの貴族について歌っています。GACKTとかDなどは激しくて、お互いに戦ってるヴァンパイアについて曲を歌っています。まだ研究中ですから、次の発表の時は論文についてもっと長く話します。今までいろいろな吸血鬼の映画とかアニメとか音楽などを研究したことがあります。そして、今は漫画といろいろな本を読みます。

次の話したいことはこの日本にいる一年間です。この留学の予定（プラン）です。まずは勿論論文を完成するつもりです。ポーランドに帰るすぐ後は卒業論文を受けたいの

で日本にいた間には完成しないといけない。色々な本や漫画を集めて、バンドとインタビューして、いい論文を書きたいです。ポーランドにいたときは書き始めたが、書類をあまり見つけられませんでした。ポーランドにはアニメとか漫画以外、ヴァンパイアに関する日本の本はあまりないので少し困りました。勿論インターネットで注文出来ますがポーランドまで送るのがお金と時間がたくさんかかりますので少し問題でした。でも、ここにいた間はたくさん買えます。

論文を書くこと以外、勿論私の日本語の能力を高めたいです。ポーランドにいた時は日本語で話せるチャンスはそんなに多くないので、この一年間には毎日、日本語の会話を頑張って上手になりたいです。あまり話せないと言語の勉強はできません。

勉強が一番大事だけど勉強以外は少し遊びたいです。日本で旅行したい所がたくさんあるので、暇な日には観光します。今は周りのところを観光したが、2月から大学は春休みですから、広島、姫路、京都、奈良などに行きたいと思います。そして6月にはポーランド人の友達も訪ねてくるので、あの時は一緒にまず関西を観光して、東京に行くつもりです。今までも素敵なおところを見に行きましたのでいい思い出になります。

日本の生活にも慣れました。1つだけ慣れないことがあります。パンです。日本のパンは美味しいけど、やっぱりポーランドのパンは懐かしいです。でも、日本の食べ物も大好きですから毎日美味しい和食を食べるのは本当に嬉しいです。多分ポーランドに帰ると日本のカレーや天ぷらやお好み焼きなどは恋しくなります。

勿論ワルシャワでは日本料理を食べられますが、本当の日本で食べられる料理はもっと美味しいと思います。

神戸の生活にも慣れました。神戸はとても住みやすい街だと思います。東京より安くて関西のどこでも近いです。人も優しく、親切でいつも困る時は誰かが手伝ってくれます。景色もきれいです！大学と寮は両方坂道にあるのでいつも素敵な関西の夜景を見ると感動します。神戸の夜景は本当に好きになりました。部屋にいる時はずっと窓の外に眺めて、勉強に集中できません。

この冬には神戸ルミナリエにも行って感動しました。そして今年は神戸には世界一高いクリスマスツリーがあったので、今年実に見えるのはラッキーでした。神戸大学も素晴らしい大学だと思います。授業は面白くて、先生はかっこいいです！色々な授業を受けます。今は最後の試験が始まったが、多分多すぎる授業に登録してしまいました。試験はたくさんありますから。でも、先生は優しいので試験は全然怖くないです。実は今日の発表は試験よりもっと緊張しました。

神戸に生活するのはとても楽しくて、面白くて優しいです。困っていることはそんなに多くないです。

今日話せるトピックはここまでです。少し混乱なスピーチになってしまいましたが、話したいトピックはたくさんありすぎて、何について話すかどうか決められませんでした。

日ポ・サロンの皆さん、日本に誘っていただきありがとうございます！みなさんをはっきりとされないように論文も、勉強も頑張ります！

(本文は原文のまま)

秋の親睦会 / 万博記念公園

2017年11月25日(土)

会員34名・幼児1名・お客様5名・留学生3名



「秋の歓迎遠足」

池田 瑞子

11月25日、ポーランドからの新しい留学生ウルシュラさんを迎えての歓迎会がありました。集合場所は万博公園でした。久しぶりの万博公園はきれいだろうな、人がいっぱいかも・・・など思いながら到着しました。皆さま既にたくさん来られていて、私が最後でした。

当日は珍しく穏やかで晴れ渡り、風もなく最高の天候に恵まれました。澄み切った青い空！先頃の台風の大雨がうそのようでした。一行はまず、ホテル阪急エキスポパークのレストランでバイキングの会食をしました。

主賓のウラちゃん（ウルシュラさんの愛称）は友人のポーランド留学生と一緒にここに楽しそうでした。そこでデザートまで十分頂いてからいよいよ、目の前の万博公園に入りました。緑いっぱいであつた公園なので、散策にぴったりの所です。でも全部歩くことになるとかなり大変、と思っていると、森のトレインという看板がありました。これはヨーロッパの街を走っている観光用のプチトレインのことです。これは昨年来たときにはなかったものです。時刻表を見ると小一時間も待たないと乗れないようでした。でも役員の方の素晴らしい心遣いで、我々会員のために、トレインの貸し切り予約をしてくださっていました。ナンということでしょう。チョコレート色のトレインがやってきました。皆さま、童心に帰ってワクワクしながら乗りこみました。トレインの運転手のダジャレいっぱいの案内に紅葉を眺めながら進みました。木道前で全員下車し、木道を散策することになりました。木道は高さ3mから10mある木製の遊歩道です。ですから眼下に変化に富んだ景色

を見ることができます。池や紅葉、川など眺めながら進みました。勿論歩く人より高い木もたくさんあります。森の中の空中散歩といった感じです。横に、下に紅葉を見ることができ、この木道は歩きやすく素晴らしいものです。更によいことに、この日はとてもすいていて、ゆっくりと歩くことができました。会員の皆様、口々に「ここを選んだ方に感謝ですね」と言っていました。全く同感です。11月下旬とは思えない暖かさの中で、風もない、この天候に感激でした。紅葉のグラデーションはやはり日本ならではだと思います。ウラちゃんもいろいろ写真を撮って楽しんでいる様子でした。会員の方々も歩きながらウラちゃんと仲良く話をしていました。

散策しながら景色を楽しみ、多くの会員の方々と話も弾んでウラちゃんにとって、日本がまた、身近なものになったと思われまふ。木道の最後は19mもある展望台です。若いウラちゃんは勿論スイスイ上っていました。私もハーハーしながら登りました。万博公園の緑の中に太陽の塔が首を出しているのが遠くに見えました。公園の外の街の景色も一望できます。こうしてアップダウンのある木道散策は終わりました。この素晴らしい企画と今日のめったにない上天気感謝し、ウラちゃんの日本滞在が実り多いことを祈りました。

最後に私事ですが、この夏、新しくメンバーに加えていただきました。長らくポーランド留学生を支えてこられた活動の積み重ねのおかげでウラちゃんと知り合うことができました。外国人で日本好きの人は日本の伝統に関心を持ちますが、ウラちゃんはそれに加えて、現代日本文化にも興味を持っているようです。

論文では日本の吸血鬼を扱うとか。私の知らない現代日本の若者の生態を逆に教えてもらう感じです。ポーランド好きの私にとって、こんなにたくさんの方がポーランドを応援しているのが驚きでもあり、うれしくも思いました。今後ともよろしく願い申し上げます。

ワルシャワ旧市街(世界遺産)



“ワルシャワ旧市街(世界遺産)” 池田瑞子・画

「ポーランドと私」

野村 壽子

大昔の事です。霧の中を小舟で祖国を離れパリに向かうショパンの映画の一場面を覚えています。

「楽聖ショパン」という映画で全編に流れるショパンの曲の素晴らしさと宮廷の華やかなパーティーの場面に魅せられ、それからというものの寝ても醒めてもショパンで78回転のレコードを擦り切れるほど聴いておりました。

それが私とポーランドの最初の出逢い。

周りの国々に翻弄され続けた悲しい歴史を乗り越えてきた底力を持つポーランドに魅力を感じてたものの、なかなか知る機会を持てずに居りました。出逢いから半世紀以上も経ち、日ポ・サロンの会員でいらした澤山さんからこのサロンのお話を伺い、直ちに入会させていただきました。

毎年来日される優秀な留学生に様々なポーランドの文化や今の国情を教えていただき、身近に感じる事ができ、嬉しく思っております。また、ショパンコンクールも是非体験したいと申し込みましたが、愚かな事に詰めの甘さで願ひ適わず無念の涙にくれ、未だにポーランドの地を踏めずにおります。

今年もまた、ウラちゃんという留学生を迎え、どのようなお話が聞けるかと楽しみにしております。

微力ながら両国の交流に何か少しでもお役に立てたらと願っております。また、いつかポーランドの地をこの足で踏みしめることが出来るのを祈っております。

春の行楽“京都白川の桜と大江能楽堂”

長岡 正

2018年度の親睦会は、白川の桜と大江能楽堂を見学致します。京都は桜の名所は多々ありますが、白川の桜は近年、人気が非常に高い場所です。京都花街祇園に流れる清流・白川沿いに梅、道路を挟み柳とコントラストの良さに加え、川沿いにある風情のある料理屋の街並み、可愛い異神社や異橋、この橋の上から見る桜は捨てがたい京の暮しの美しいシンフォニーです。また、川辺の吉井勇の歌碑を読み、

「かにかくに祇園はこひし

寝るときも枕のしたを水のながるる」

と、京情緒に和まされます。

一方、大江能楽堂は京都市役所に近く、京町屋の中にひっそりとした佇まいで、気をつけないと通り過ぎてしまうほど街並みに溶け込んでいます。靴を脱いで古い木造の建物に入ればタイムスリップ。昔の芝居小屋のような造りで見物席は棧敷です。薄暗い建物の奥に凛とした能舞台、創建110年の歴史の重みを感じさせます。所有者大江氏のお話や能衣裳ほかを拝見、ワークショップを計画しています。話の種に、是非会員のみなさまのご参加を幹事一同お待ちしております。

日ポ・サロン創設20周年記念コンサート開催

大型バリトン歌手

三原 剛氏 招聘実現!!

三原 剛 MIHARA TSUYOSHI
バリトンリサイタル

2018年10月6日(土)

午後2時開演 (1時30分開場)

ザ・フェニックスホール

澤 瀉 徹 郎

我国を代表するバリトン歌手 三原 剛氏の演奏会が10月にザ・フェニックスホールで実現する運びとなりました。

日本音楽コンクール第1位、オペラ新人賞受賞等、数々の輝かしい実績があり、ドイツ留学にて数々の研鑽も積まれ、稀にみる逸材、力に満ちた美声の大型、知性と感性に裏付けされた豊かな表現で気品に溢れる声の持ち主で、今回のリサイタルは大いに期待されるとともに関西音楽界の発展に一役を担うステージになることと確信しています。

演奏家として教育者(大阪芸術大学教授)として超多忙な日々の中、日ポ・サロン主催演奏会に献身的且つ重要なリサイタルと位置づけした姿勢、協力をひしひしと感じており、我々も全責任を持って事前準備に取り組み、演奏会を成功させたい。

会員皆様の大きな吹聴と積極的参画を心からお待ちしています。

音楽は生きるためだけならば、一見ムダと思われそうですが、実は人生で最も大切なものなのではないでしょうか。音楽は魂の食べ物、音楽は心のビタミン、心の風化が問われている今日において、情けを養う「養情」が一番大切なのではないのでしょうか。

音楽は人間の全ての感情を表すのです。苦しみ・悲しみ・楽しみ・幸せ・大きさ……。人生をより良く、より楽しく生きる為には必要なものです。ムダの無い、スキの無い、心にゆとりの無い生活は、老後の生きていく心の支えを失うのは目に見えています。

三原 剛バリトンリサイタルが聴衆の皆様の心のビタミンになれば嬉しい限りです。

深みのある名曲の詩への深い読み込みが、素晴らしい心に染み入る演奏会になることを約します。

ご来場心からお待ちしております。

関西在住日ポ・サロン後援留学生(2017年度)

マルチン・タタルチュク	京都大学文学部大学院現代文化学専攻
アガタ・ブイエジボフスカ	神戸大学経済学研究科講師
ドブロミワ・トウルスカ	神戸大学国際文化学部
ウルシュラ・アルトマイエル	神戸大学国際文化学部
ナタリア	神戸大学国際文化学部



特定非営利活動法人 日ポ・サロン

<http://nipposalon.org/>


< 編集後記 >

日ポ・サロンが創設された頃には、「ポーランドはどこ? ポルトガル?」質問されても、私もよく知らない国でしっかり答えられず、ポーランドについての関係本を借りてきては知識を得る日々でした。

最近はテレビのBS放送でポーランドの紹介が色々あり、ポーランド大好きの人が増えてきて嬉しく思います。日ポ・サロンの後援留学生も約80人となり、その交流でポーランドについて教えてもらい異文化を知る喜びを持たせていただき有難く、同時に会員同士の親睦も深まり、人と人との友情に感謝いたします。

会報に皆様のご感想やご投稿、お待ちしております。

事務局担当 岸 本 啓 子